

Mランドささ山校 ニュース Vol. 22

平成21年1月1日発行 篠山自動車教習所 兵庫県篠山市池上569 TEL. 079-552-0815 FAX. 079-552-3940
発行責任者 豊田文雄 HP <http://www.sasayama-ds.com/> E-mail info@sasayama-ds.com

年頭にあたり



社長
小河二郎

『愛天敬人』

昨年からの世界の動向を見る
と、オバマのチエンジではないが、
世界同時不況による変化は凄
まじい。それらを論評する有識
者たちの発言が、どれもこれも
空しく聴こえてくる、世の中の
流れの方が早いのだ。

こういう時は基本に帰つて、基
本をきっちりやることだと思って
いる。自分自身ができることを確
実に、誠意をもつてやることだ。
世の中の出来事は、経済の変動
だけではないし、日本の国は、政
治や政局だけで動いているのでは
ないことを知るべきだ。アメリカ
では、黒人の大統領が生まれて
いるし、益田市(島根県)は、いつ
の間にか子供も産めない市になっ
ている。二〇〇九年は、慌てる人
にとっては生きにくいが、自分の
仕事をきちんとできる人にとって
は、そうでない面白い年になり
そうだ。

騒がしい世の中で耳をすませ
ば、今、近代という文明が崩壊

していくその騒々しい雑音の中
で真実が見殺しにされているの
を感じる。

米国では、最近、第二次世界

大戦時の極秘情報が開示され
た。それによると、前の世界大戦
は、米国の挑発に乗ったジャップ
(日本人の蔑称)が、アメリカの
情報省の戦略にまんまとまつ
た結果であると、正式文書によ
つて認めている。このような事が
あったことに、日本国家としてど
う対応するのか、責任ある政治
家や官僚の意見を聞きたいもの
であり、何も反応していないこと
に唖然としている。

私たち今は今も近代文明の中に
いて、その恩恵を受けているのは
事実だが、第二次世界大戦の総
括をすると同様、近代文明の誤
りに気付いた時、速やかに反省
し、考え方を改める必要がある
と考えている。

我が社は、そのために理念の中
に「有機体組織の創生をはか
り…」と宇宙を有機体、即ち生
き物と同様に捉えており、さら
にこれを一步進めて、「愛天敬
人」をキーワードにした、より具
体的な進化進展を計っている。

西郷さんは「敬天愛人」と言つ
たが、「愛天敬人」と真似はして
いるが、向こうを張ったのではな
い。時代が進化したのだ。西郷さ
んが生まれた時代は、未だ天は
敬畏すべき時代だった。ところが、
天は近代文明により物質と化
し、その尊厳を失つた。しかし、
今再び天は、偉大な有機体とし
て甦つた。それは、人が人として
母を否定できないように、宇宙
は私たち人間をつくったのであり、
ちょうど母を愛するように宇宙
を無条件に愛する以外あり得
ないのだ。だから「敬天」でなく
「愛天」なのだと考えている。

西郷さんの言う「愛人」も同じ

ようすに甘ちよろい語感である。

人は善いこともするが、どんな悪

いこともできる。そうして正反

対に変わることもできる動物な

のだ。また、単純だと思えば複

雑だし、その反対もある。要

するに、人というのは、捉えどこ

りのない存在なのだ。そして、何

より人はその心の中に、一人ひ

とり自分が思う宇宙をもつてい

る。だからこの不思議な生きも

のである人間を、一片の「愛人」

では片付けられない。「愛」では

なく、一言で言えば「敬」、だから「敬人」となる。

「愛天敬人」で、この世のことを

深く考えて生き抜いていこう。

人は、この世に果たすべき自分の

天命を知って生きできている。人

は、無条件で天地を「愛する」こ

とにによって「運」をつくり、決して

試練というのは乗り越える為

にあり、乗り越えられない者に

は決して訪れないと言われます。

今年は「伝え話す・和・前進」を

もう一つ、感動が生まれ、ゲストと

共に成長、発展していくMラン

ドさき山を社員と一丸となつて

創つてまいります。皆様のご指導、

応援をよろしくお願ひいたしま

す。ありがとうございました。

仲良しクラブにしないで厳しく
人を「敬する」ことによって「よき
人生を祈ります。

二〇〇九年の幸運と
よき人生を祈ります。

新年明けまして

おめでとうございます

井階正義



専務
井階正義

新年の抱負

新年明けまして
おめでとうございます

旧年中のお引き立てに心より

ございました。

振り返りますと、昨年は反省

お礼申し上げます。ありがとうございます。

ございました。

と後悔の一年であつたように思つ

ております。お客様の考え方、希

望が日に日に変化する今、何を

求め、何をするか、また機敏な

対応が欠けた一年であつたと感

じましたが、本を正せば基本と

なる心、理念と目的を見失つてい

たと反省しております。

また、大型自動二輪指定前教

習も昨年末より開始し、五月

中に必ず指定を得て、六月の

教習開始を目指にしておりま

す。「自然を楽しみ、地球を走

る」ということをゲストに伝えて

いくことが私たちの使命と考え

ております。

また、大型自動二輪指定前教

習も昨年末より開始し、五月

中に必ず指定を得て、六月の

教習開始を目指にしておりま

す。「自然を楽しみ、地球を走

る」ということをゲストに伝えて

いくことが私たちの使命と考え

ております。

また、大型自動二輪指定前教

習も昨年末より開始し、五月

中に必ず指定を得て、六月の

教習開始を目指にしておりま

す。「自然を楽し

み、地球を走

る」ということをゲストに伝えて

いくことが私たちの使命と考え

ております。

また、大型自動二輪指定前教

習も昨年末より開始し、五月

中に必ず指定を得て、六月の

教習開始を目指して

おります。

新高齢者講習について

■ 本年6月施行予定の高齢者講習に関する法の一部改正に伴い、改正点や指導方法等を各教習所、指導員に周知徹底を図ることを目的に、ブロック代表として選抜されて中央研修所（茨城県）での伝達講習を受講してまいりました。

大きな変更点は、「免許更新期間満了日に満75歳以上になっている方は、認知機能検査付きの講習を受講しなければならない」ということです。

旧講習から新講習への移行処置において受付基準等いろいろあります。高齢者講習は、70歳以上75歳未満の方が受ける講習と75歳以上の方が受ける講習の二通りとなるのです。

兵庫県下11か所の教習所に講師として出向きましたが、教習所協会はじめ他の講師、そして会社の皆様のご協力を得て、無事所期の目的を達成できたものとほっとしています。感謝申上げます。

同時に今回は、他の教習所

の指導員の考え方や指導方法等お聞きする機会もあり、私自身大変勉強になりました。

田さんの食養講座

第三回（五回シリーズ）

ライフハーモニー
教育研究所所長

位田 隆久

「法食・邦食・報食、『食の三原則』です」

最後になりますが、高齢者講習の実施にあたっては、受講される方の立場に立て納得のいくものにしていくようさらに研鑽努力してまいります。それぞれ担当される指導員の皆様も同様によろしくお願ひします。

以上



講師を務める新田インストラクター

平成20年学科試験結果 (1月～11月)

■仮免試験	
篠山校	91.5 %
県平均	65.7 %
■本免試験(1回合格)	
篠山校	75.2 %
県平均	56.3 %

経済の発展は食の豊かさと繋がっています。しかし、豊かになった食（豊食）が「飽食」や「崩食」になり、一億総生活習慣病となれば問題です。さらに今や「呆食」とまで言われ、加えて、食料自給率が39%と「泡食」です。外食が増え、肉食が増え、加工食品に頼り、さらに輸入食品に頼る食環境は正常ではありません。そこで食の三原則について考えてみましょう。

まず、人間の歯32本（親知らずを除くと28本）は臼歯20本（16本）、門歯8本、犬歯4本です。その比は5（4）…2・1。歯は、穀物野菜を中心いて少々と教えていきます。又、約4千種の哺

乳動物の爪は平爪（草食動物）と鈎爪（肉食動物）に分かれます。人間の爪は平爪です。穀物を中心には季節（旬）の野菜、肉は少々です。一つ目の原則は、自然の法則に従つた「法食」です。

次に、生活している土地で生産されるものを食べるということです。地産地消です。そして、肉をほとんど食べて来なかつた先祖をもつ私達の体は、肉を多食して来た歐米人と比べて長い腸を持つています。肉の多食は私達の体に向いていません。この国（邦）で食べられて来た伝統食を食べます。二つ目の原則は、身土不二（しんどふじ）、「邦食」です。

真の「豊食」は「法食・邦食・報食」。これが「食の三原則」です。食育が叫ばれていますが、この三原則を離れては、いかなる食育もありません。

最後にもう一つ、人類の長い歴史は「飢えの歴史」でもありました。この中で獲得した遺伝子は飢えには強いが食べ過ぎには上手く対応できません。ご用心ご用心、腹八分いや七分でござります。元旦の食べ過ぎは七草粥で体を休めましょう。

■急速な高度情報化とグローバリズムの波が世界中をそして私たちを多元化社会へと呑み込んでいます。その生命をいただかない生きて行けない私達です。三つ目の原則、食べ物に感謝と祈りの「報食」です。

真の「豊食」は「法食・邦食・報食」。これが「食の三原則」です。食育が叫ばれていますが、この三原則を離れては、いかなる食育もありません。

そこで必要になるのが対話です。これまでには討論（ディベート）により決着をつけられました。この中で獲得した遺伝子は飢えには強いが食べ過ぎには上手く対応できません。ご用心ご用心、腹八分いや七分でござります。元旦の食べ過ぎは七草粥で体を休めましょう。

朝焼小焼だ大漁だ
大羽鰯の大漁だ。
浜は祭りのようだけど
海のなかでは何万の
鰯のとむらいするだろう。

金子みすゞさんの有名な詩「大漁」を味わって下さい。

合掌



1949年兵庫県高砂市生まれ
元報徳学園校長・社会教育家

編集後記

■急速な高度情報化とグローバリズムの波が世界中をそして私たちを多元化社会へと呑み込んでいます。共に証明されています。共に対話し、これから新しい時代を創造しましょう。

本年もよろしく
お願いします。（文）